



私の  
**なんとか  
しなきゃ!**

Vol. 65

## PROFILE

1980年愛媛県出身。横浜国立大学卒業。大学在学中からタレント活動を始める。バラエティに加え、ニュース番組のコメントーターやMC、執筆などマルチに活躍。趣味は一人旅で、これまで訪れた国は20カ国以上。旅先でのエピソードなどをつづったエッセイ『世界をひとり歩いてみた——女30にして旅に目覚める』はベストセラーになり、第2弾も出版されている。

私が一人旅に目覚めたのは、30歳になってからです。大学時代は周りに旅行好きな友人が多く、安宿を利用して東南アジアなどを巡っている姿を見て、常々憧れていました。でも、私は大学に入っただけでこの仕事を始めたので、そんな時間もなくて。たぶん、その反動もあったと思います。30歳を迎えて少し自由な時間が持てるようになり、初めてパリ一人旅を思い立ったのです。

飛行機のチケットとホテルだけをおさえて出発しましたが、フランス語は全く分からないし、そもそも普段から一人で電車に乗ることすら危うい私。もちろんトラブルにも見舞われました。けど、ドラクエ世代の私にとっては、まさに“リアルRPG（ロールプレイングゲーム）”とも言うべき、ちょっとした冒険に思えたのです。現地では出会った方のアドバイスを基に行ってみると、そこがすごく素敵な場所だったり。そんな感覚が面白くて、旅の魅力にはまりました。

最近旅した国は、民主化の流れの中でこれから大きく変化すると言われてい

るミャンマー。今しか見られない風景を見ておきたいと思いヤンゴンの街を訪れましたが、本当に発展の夜明け前のような雰囲気にも包まれていました。

印象的だったのが現地の列車です。鉄道はゆっくりと時間が過ぎていく感覚が好きでよく利用しますが、ミャンマーのローカル線は、観光客向けの車両があることに驚きました。ですが私は、駅員さんの勘違いで、現地の方が多く利用する車両に案内されたのです。板張りの床に、大きな籠を抱えて物売の人たち。列車の中とは思えない雰囲気でしたが、味があって好きでした。さまざまな出会いがあり、移動時間も旅の思い出の一つになるところが鉄道の良さですね。

昨年、子どもが生まれ、今はなかなか旅行もできなくなりましたが、子どもが大きくなったらいろんな国に連れて行ってあげたいです。きれいな街並みはもちろん、雑多な感じの市場にも。日本と全く違う生活や環境があることを知ってもらいたいと思っています。

いざ、冒険と感動の旅へ

タレント 眞鍋 かをり

MANABE Kawori



旅先では楽しい反面、貧しい家庭の子どもがお土産を売っていたり、孤児院の支援を求められたり、開発途上国の悲しい現実もたくさん目の当たりにしました。今、母親になって一層感じるのは、どんな国であっても子どもたちが幸せに暮らせるような世界であってほしいということです。

もし、私のような旅行者が気軽にできる国際協力の形があれば、積極的に関わっていききたいです。それから、いろんな団体が行っている募金も、そのお金がどう使われているのかがちゃんと分かるようになれば、寄付する人がもっと増えると思います。いつか子どもと一緒に旅行できる日を夢見て。行ってみたい国は、まだたくさんあります。

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトやFacebookの専用ページを通じて、さまざまな国際協力の情報を発信していきます。

なんとかしなきゃ で 検索